



桐生ロータリークラブ週報

2009年

国際ロータリー第2840地区 2009-2010年度 国際ロータリーのテーマ



THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS

R.I 会長 ジョン・ケニー

善意というものがいいなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

バストガバナー 前原 勝樹

会長 山崎 一順 幹事 野間 義弘

クラブ会報・広報委員会 須永 博之・坪井 良廣・吉田 栄佐・森 末廣

8月10日号

第2703回例会

(8月3日(月) 第1例会)

- 1. 点鐘
- 2. 国歌斉唱
- 3. 桐生市歌斉唱
- 4. 四つのテスト唱和
- 5. 来訪者紹介
- 6. 結婚・誕生祝

- 7. 乾杯
- 8. 会長の時間
- 9. 幹事報告
- 10. 委員会報告
- 11. 卓話

「会員増強及び拡大月間」ちなみに
会員増強委員長 岸田信克君
「新年度を迎えて」
特別委員長 水越稔幸君

- 12. 点鐘

ようこそビジター

〈群馬大学〉

〈生命のメッセージ展in桐生実行委員会〉

委員長 長岡 昇汰君 (桐生高校2年生)
古見 卓也君 ()

ネパール留学生 ラジュ・クマール君



誕生日

佐藤 富三君 84歳 前原 正一君 83歳
赤松 隆君 76歳 肥塙 俊成君 45歳

会長の時間

- ①梅雨が明けたと、思ったら、逆戻りしてここ連日不順な天気が続き、各地に色々な被害をもたらしていますが、早く夏本来の天気に戻って欲しいものです。被害にあわれた方々には一日も早く、立ち直ってほしいと思います。
- ②今週7,8,9日桐生八木節祭りが、開催されますが関係者の方々多数おられるとおもいますが、成功裏に終わりますように、ご尽力いただきたいと、思います。
- ③今月は会員増強および拡大月間でありますので、岸田委員長さんの卓話がありますが委員会の方々だけにまかすのではなく会員の皆様方一人ひとりが増強委員のつもりで取り組んでほしいと思います。やはり、4年後を見据えた場合にぜひはたさなければ、大変だと思われますので、よろしくお願ひいたします。

幹事報告

- 桐生中央・桐生赤城の各RCより、2009-2010年度現況報告書が届いております。
- 桐生南・桐生西・桐生中央・桐生赤城の各RCより週報到着。
- 本日例会終了後 定例理事会を開催致しますので関係役員の方は、出席お願い致します。
- 次回、10日(月)は、ガバナー補佐訪問となります。例会終了後、第1回クラブ協議会を全員参加で開催致しますので、よろしくお願いします。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成21年8月3日):総員65名・出席42名
平成21年7月13日例会修正出席率:83.33%

ニコニコボックス

佐藤富三君・前原正一君・肥塚 照成君…誕生祝ありがとうございます／藤井征夫君…照る照る坊主が欲しくなりました／岸田信克君・水越稔幸君…卓話をさせていただきます／月門快憲君…ラジュ・クマール君(ネパール・群大工学部)を紹介します／須永博之君…水越特別委員長の卓話を楽しめさせていただきます／大友一之…命のメッセージ展実行委員をお迎えしてがんばってください。

【第2702例会】前回卓話続き



卓話

「新年度を迎えて」

2009～2010年度
社会奉仕委員長
本 田 雄一郎 君

「ロータリーの社会奉仕とは何か」ということについて、私が今回勉強させていただいた事を皆様に発表するという型で、本日のスピーチとさせていただきます。

◇入会して6年…H15.7月に入会して今年で6年に なりますが、今だにロータリークラブの目的を理解しております。

ロータリーは何をする団体なのか

青年の頃、青年会議所おりましたが、青年会議所では例会の時に綱領を唱和します。その中に目的が書かれています。青年会議所はまちづくりをする団体であり、その為の活動をしていく訳です。

ロータリーにおいても綱領にその目的が書かれている訳で、今回はじめて真剣に綱領を読ませていただきました。まとめる

- ①奉仕の機会として知り合いを広めること
- ②事業の水準を高めること
- ③奉仕の理想を生活に適用すること

④それにより平和の推進をすることとなり、ロータリーの目的が世界平和の推進であるということが今回はじめて理解出来ました。

さらに、前原先生の「ロータリー入門書」にはロータリーの目的とは

人間関係の改善をすることにより、よりよい社会をつくり、平和な世界を築くために貢献すること、と同様なことが書かれてありました。

人間関係の改善とは

奉仕の理想をふるいおこす目的で、会員同志が深い信頼と友情によって結ばれること。いわゆる親睦活動が重要であるとのべている。

私がもっと簡単に綱領を表現すると

あらゆる職業より選ばれたメンバーは、クラブに集い、親睦を深め、奉仕の精神を学び、その心をすべての生活に適用して、平和な世界を築きあげよう。となるでしょう。そして、世界平和の推進のために何をすれば良いのか、方法が書かれています。①親睦②職業奉仕③社会奉仕 ここではじめて社会奉仕のあり方が出て来ます。ロータリーの社会奉仕とは、奉仕の理想を社会に適用するということなのです。

「奉仕の理想」の意味は、

「思いやりの心」と「たすけあいの心」をすべての生活にとり入れていこうということだと思います。

「ロータリーにおける社会奉仕」については、

社会奉仕に関する1923年の声明というものがあり、「決議23-34」として、ロータリーの理念が明確に定義づけられています。

内容の一部を紹介すると、

ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人、生活・事業生活・社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励・育成することである。

第1条 ロータリーは基本的には、一つの人生哲学であり、自らの利益を求める利己の心と、他人の為に奉仕したいという他利の心の間に存在する矛盾を和らげようとするものです。即ちロータリーの哲学は①Service above selfという奉仕哲学であり②Heprofit most who serves bestという実践理論に基づくものです。(①社会奉仕におけるボランティア活動のモットー ②職業奉仕のモットー)私にとっては非常にわかりにくい

そこで、「社会奉仕とは何か」ということについて、今回私が学んだ3つのことを紹介していきたいと思います。

①H21年5月16日(土)地区協議会、社会奉仕、職業奉仕分科会における、深川パストガバナーの話。

ロータリーは心をみがく場所

ロータリークラブはロータリアンが勉強する場所 です。
そこで社会奉仕の心を作りなさい。

②前原勝樹先生の「ロータリー入門書」より

奉仕の意義や仕方を学んだロータリアンが各々の生活分野で社会奉仕をしてもらいたい。また地域社会で指導力を發揮してもらいたい。

桐生ロータリーのメンバーの中には
この様に各々の生活分野や地域社会で指導力を發揮
されている人がいらっしゃると思います。

③H21年7月7日(火)阿部バスト会長による社会奉仕の話し

この勉強会は、私が社会奉仕委員長になって「社会奉
仕活動」をしてゆくために「社会奉仕とは何か」について
教えてもらいたいのだがどうしたらよいかと、当委員会の副
委員長の五十嵐バスト会長に相談したところ、それを実践
されている阿部さんの話をまず聞いた方がよいとのアドバイ
スを受けて実現したことあります。

さて、阿部さんは

「ロータリーにおける社会奉仕の現状と今後の桐生ロータリーとしての社会奉仕活動のあり方」として、日本人の特長に合わせた奉仕活動の提唱と実践活動を通して奉仕意識の高揚をはかけという、少々つっこんだ話をしていただきました。

以上、3名のお話の内容には共通点がありました。いかがでしたか。たぶん私より入会の浅い方は、少し社会奉仕とは何かということが理解できたのではないでしょうか。

ロータリーの社会奉仕活動は、ロータリーの目的を達成していく為に大変重要な活動です。まずメンバーがそういう意識をもつこと、そしてコミュニティの最小単位から「思いやり」と「助けあい」を実践していきましょう。

特別委員会・社会奉仕委員会 合同家庭集会より

「RCの社会奉仕」 講師 阿部 高久君

*RIの社会奉仕というのは非常に分かり難い。
団体行動よりも個人的活動の方がロータリー精神に合致しており、RCはロータリアンに奉仕をさせる為の訓練と実習の場であると言われていた。即ちロータリーは奉仕団体でなく、奉仕の心を学ぶところだという理念が大切にされていた。

言い換えると、ロータリアンは日々の職業奉仕に専念すべきで、職業奉仕の実践を基本とし、そののち社会奉仕に及ぶべきという、クラブとしての活動に否定的な意見だった。

しかし、この理論派の意見と、社会奉仕を積極的に行うべしとする実践派との大論争になり、挙句の果てにはロータリー分裂の危機さえ起きた。そこで、1923年に決議23-34が制定され、クラブレベルの団体奉仕活動を全て否定するものではないという事になり、理論派に近いが実践派にも歩み寄ったという正に玉虫色の解決を計った。

この頃、多くのロータリアンがライオンズクラブに流れていると言われている。

ロータリーは1905年にクラブ団体(124万人)として、ライオンズは1917年に社会奉仕団体(135万人)として誕生した。

*ライオンズの誓い——社会奉仕に精進する

*RCは I Serve、LIONSは、We Serve われわれは奉仕する。

決議23-34

ロータリークラブとは、ロータリーが提唱する奉仕哲学を受け入れ、それを実行する職業人の集まりである。奉仕哲学を学ぶ場は例会であり、奉仕の実践活動は原則的にロータリアン個人に委ねられているが、個人もクラブも奉仕の理論を実践に移さなければならぬと記載した。

*RCは国際的な奉仕が実際に多い。例えば、ボリオ・プラス、識字率向上、米山奨学生、ロータリー財団の交換学生金、国際親善奨学生、GSE(研究グループ交換)世界社会奉仕(WCS)等々国際奉仕は良くやっており、金も出している。しかし、国内の地域社会に密着した奉仕となると寂しい限りだ。

*RIの考え方には、アメリカ人の個人主義の思想が流れているように思う。アメリカ人は一人でも積極的に実践できる。しかし、日本人は一人ではなかなか実践できないが、団体ならできるというのが一般的だ。

日本のRCは、早くから日本の奉仕活動を提倡していれば、こんなに国際的奉仕（金を出すだけ？）に片寄らなかつたのではないかと思う。

*この様に理論ばかりが先行しているので、奉仕の達成感を重視する若い世代のボランティアの考えとは大きくかけ離れてきている。

個人だろうと、団体だろうと関係ない。理屈を言っているうちは何も出来ない。日本の社会奉仕でも良いからどんどんやれば良い。

*ローカリークラブは自分たちのマチにあってそこで生活をしている訳だから、先ず自分たちのマチに対して、我々は何ができるかを考え社会奉仕活動を展開すべきで、「奉仕活動は個人でやるべきだ」などと理屈を言っているより、日本的にやり易いように活動していくべきではないかと思う。

現在RCがやっている国際奉仕は大変重要ですが、いま大切なことはこの町で何が必要か、何が求められているのか?RCはなにができるか?考えて欲しい。

例えば、地域に於いても青少年のエイズが大変増えている、或いは麻薬が蔓延している。また、少子高齢化問題、深刻な環境問題(CO₂削減)自然保護、老人福祉、障害者など弱者救済、青少年の教育、芸術活動、まちづくり運動等々色々な問題を抱えている。

ロータリークラブは、こうした問題を一年に一つでも取り上げて問題提起して、行動を起こしていくべきではないかと思う。



「会員増強及び拡大月間」にちなんで

2009～2010年度
会員増強委員長
岸田信克

会員増強を考えるときに、2つの側面を持っていると思います。

1つは退会防止、他方は会員増強です。始めに退会防止を考えてみましょう。

退会理由 1 経済的理由

2 例会に楽しさを見出せない

以上の2点が大きな理由と考えられます。

1については、優秀な企業人である皆さんに何もいうことはありませんが、ここでは

2について少し考えてみたいと思います。

具体的には、例会場で話し相手が、見つからないということです。本人の努力に負うところが大きいわけですが、例会に出来るだけ出席し、委員会活動・親睦活動を通して、会員相互の融和と友情を深めることができます。また入会もない新人会員には、推薦会員が隣席に座り、何かとサポートをしてあげることが、必要です。

別な切り口から見ると、「魅力的なクラブづくり」を実現すれば、会員は自然と集まつくるということになりますが、実際は至難なことです。

平たく言えば、何でも相談できる友人（会員）を、クラブに作ることをお勧めします。こうした関係は、固い絆を醸成し、退会への抑止力となること、請け合いでです。またこうした友人づくりに一役買ってくれるのが、親睦クラブの存在です。ゴルフ部・野球部等を上手に活用して、一生付き合う友を発掘できれば一石二鳥です。

次に会員増強ですが、7月1日現在会員数65名、年齢構成を見ますと、80代 5名、70代 9名、60代 16名、50代 29名、40代 6名、30代 0名で会員平均年齢は61歳になります。

中でも、40～50代の若い会員の入会を希望するのですが、もう一つ若い会員からの情報提供を節にお願いするしたいです。

また女性会員問題も、避けて通れないと思われます。

1989年から正式に受け入れが認められ、2007年世界14,57%、2008年日本3.87%にまで会員を増やしてきました。

女性だけのクラブもあれば、一方では昔ながらの男性オーリーのクラブも存在します。

現在当クラブは、女性会員受け入れの土壤ができておいませんが、時代とともに変化していくものと思われます。

最後になりますが、全会員、会員増強委員になっていただき、地区目標あります純増1名を実現させようでは、ありませんか。

よろしくお願い致します。



「新年度を迎えて」

2009～2010年度
特別委員会委員長
水越稔幸君

本年度、特別委員会委員長並びに副SAAを務めさせて頂きます水越稔幸です。宜しくお願い致します。

再入会させて頂き、やっと1年が経過した頃に、山崎会長より特別委員会の委員長をやれ、とのお言葉を頂きましたが、自分の中では「未だ委員長なんて無理だな」と思いました。

しかし過去に自己都合に依る退会と云う事で、クラブに大変ご迷惑をお掛けしている身で、恐れ多くも会長から言わされた事をお断りする訳にもいかず、自分に出来るのか大変不安な気持ちでお受け致しました。

更に不安で有ったのは、通常の特別委員会と云うと、○○特別委員会のように、特別の前に何を目的とする委員会なのかの表記が有りますが、その無い特別委員だったことです。

そこで会長に「何をする為の委員会なんですか？」とお聞きしたところ、会長から「何でも出来るように、あえて何も付けて無い」旨のお話を頂き、ちょっとばかりショックでした。

しかしその後会長から、ロータリークラブとして市民の方々との交流も少なく、ロータリークラブを理解している方々も非常に少ないので現状で有る為、そのあたりの改善をはかる為の交流の場を作りたい旨の委員会の方向性をお話し頂きました。

そこで本年度、特別委員会としては、会長方針の下、市民の方々との交流の機会を模索・研究し、各常設委員会の方々にもご協力頂き、ロータリークラブをより多くの方に理解して頂けるよう積極的な活動をして行きたいと考えております。具体的な事項は未定ですが、当委員会には、山上副委員長他、大変すばらしいメンバーを配属して頂いておりますので、活発に家庭集会を行い、親睦を深めながら今年度、会長のテーマもあります、会員増強の一助にもなるよう精一杯努力してまいりますので、一年間よろしくお願い致します。

* お知らせ *

【次回例会予告】 8月17日(月) 休会

8月24日(月) 「ガバナー講話」

国際ロータリー第2840地区

ガバナー 牛久保哲男君